

## ◆単元のポイント

## ◎地域の自然＝藻琴湖

題材となる藻琴湖は、本校の目の前にあります。オホーツク海に面した汽水湖で、豊かな自然に恵まれています。子どもたちにとって身近な存在です。



## ◎一人一人がテーマを設定

核となる「藻琴湖」をもとに、一人一人が「藻琴湖の魚」「草花」「鳥」など、それぞれ思い思いのテーマを設定しました。自分が本当にやりたいことを見つけ、自分の足で調べ、自分の頭で考えて、課題を解決したり実現していくよろこびを味わわせてあげたい、と考えました。

## ◎さまざまな体験を盛り込んで

## ☆まずは「とにかく探検」

教室にいたのではこの活動は始まりません。何度も何度も、湖へ足を運びました。行く度に新たな発見・疑問が生まれます。子供の目も輝きます。藻琴湖には魅力的なものがいっぱい詰まっています。

## ☆地域の方とのふれあいも

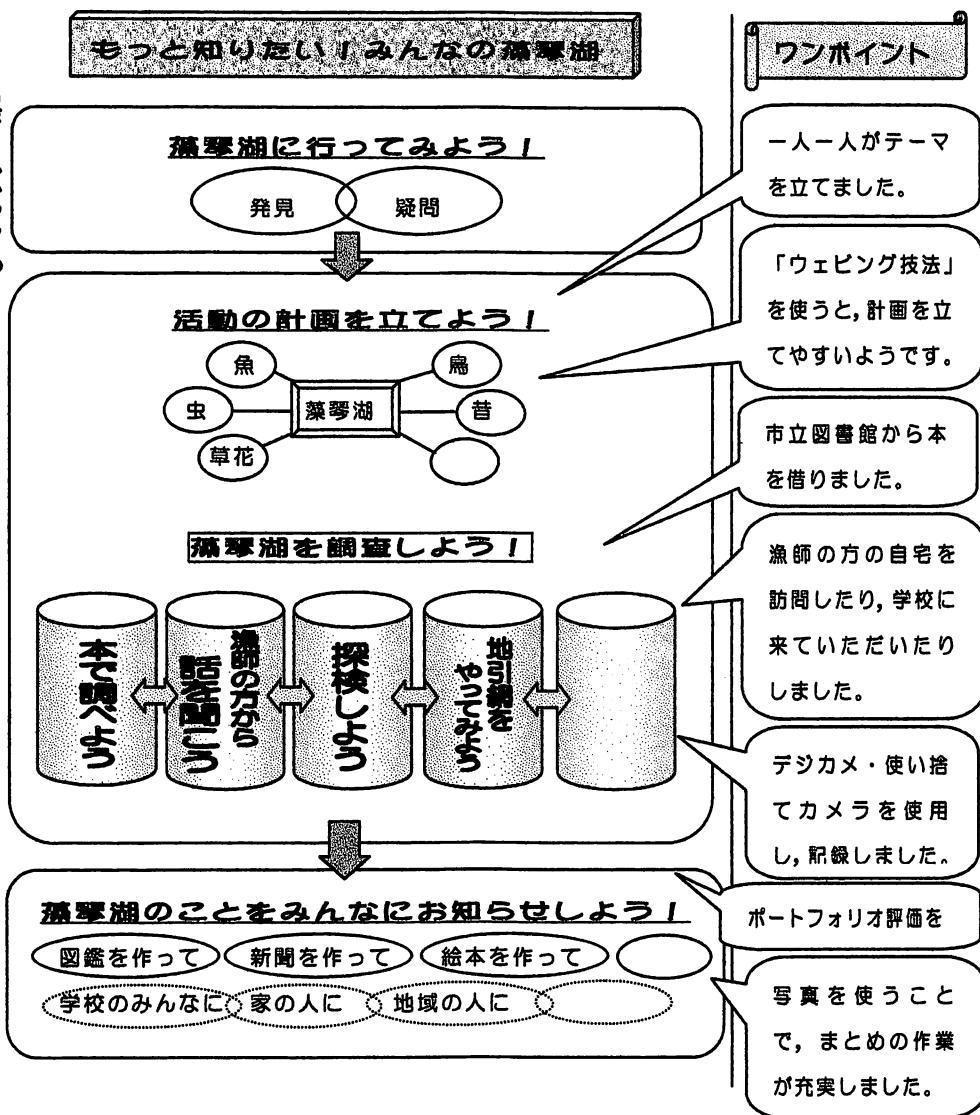
本校の「総合」の取り組みでは、各学年ともGT（ゲストティーチャー）を招いた活動が展開されます。4年生は藻琴湖で漁業を営んでいる方のご自宅を訪問したり、学校に招いてお話を伺ったりします。生の声は教師が教えるよりもずっと新鮮であり、子供たちの目もたいへん輝きます。人との接し方なども、自然と学ぶことができます。

## ☆地引網も

本校では例年、PTA親子レクとして地引網体験を行っています。サケ、マスなどをはじめ、実際にさまざまな魚が捕れるのですが、この行事も本単元にくみ込みます。地引網体験により、さらに活動が充実します。

## ◆単元の構想（16時間扱い）

① 調べ・発見  
② 探し・深め  
③ 研究・発信  
④ 実践する



## ◆実践するにあたって

- 予定では（上記のように）16時間扱いでしたが、実際にはそれを10時間以上もオーバーしてしまいました。活動を一つ一つ丁寧に（子供の思い願いを大切に）取り組むと、予想以上に時間がかかります。
- 地域の方とのふれあいは、「総合」に取り組む上で、たいへん重要な要素の一つになります。子供の目が変わります。
- 個人テーマでの活動は、現時点での子供たちにはなかなか難しいことです。生活科の充実、他教科とのかかわり、自由研究の発展など、日常から「一人一人のテーマ」で取り組む機会を多く作ることも必要です。